

環境(環境保全への貢献)

番号	業務指標	18	19	20	前年比率 増減	定義	備考
<b>a) 地球温暖化防止, 環境保全などの推進</b>							
4001	配水量1立方メートル当たり電力消費量(kwh/m3)	0.42	0.44	0.44	0.0%	全施設の電力使用量/年間配水量	全施設の電力使用量とは、年間の取水、貯水から給水に至るまで、及び営業所、事務所など水道事業に係る各施設において使用した電力の総量をいう。
4002	配水量1立方メートル当たり消費エネルギー(Mj/m3)	0.49	0.50	0.50	0.0%	全施設での総エネルギー消費量/年間配水量	全施設のエネルギー消費量とは、年間の取水、貯水から給水に至るまでのエネルギーの使用(電力、燃料)総量で、水道事業すべての事務所で使用するものをいう。
4003	再生可能エネルギー利用率(%)	0	0	0	-	再生可能エネルギー設備の電力使用量/全施設の電力使用量×100	再生可能エネルギー(太陽光発電、小水力発電、風力発電等)利用の割合を示しており、環境負荷低減に対する取り組み度合、環境保全度を示す指標の一つである。
4004	浄水発生土の有効利用率(%)	100.0	100.0	100.0	0.0%	有効利用土量/浄水発生土量×100	浄水処理過程における発生土の有効利用率を表しており、環境保全への取り組み度合を示す指標の一つである。
4005	建設副産物のリサイクル率(%)	100.0	100.0	100.0	0.0%	リサイクルされた建設副産物量/建設副産物排出量×100	水道事業における工事等において発生する建設副産物の有効利用を示す指標であり、環境保全への取り組み度合、環境保全性を示す指標の一つである。
4006	配水量1立方メートル当たり二酸化炭素(CO2)排出量(g・CO2/m3)	254	266	222	-16.5%	総二酸化炭素(CO2)排出量/年間配水量×1000000	温室効果ガス排出量の抑制による環境対策への取り組み度合を示す。
<b>b) 健全な水循環</b>							
4101	地下水率(%)	0.0	0.0	0.0	-	地下水揚水量/水源利用水量×100	地下水はコストも安く安定しているので利用価値が大きいですが、過剰揚水による地盤沈下につながるため、許容範囲内で利用する必要がある。